

札幌商工会議所  
業界動向調査結果（6月）

平成18年8月

札幌商工会議所 総合企画部

札幌商工会議所  
業界動向調査

調 査 概 要

- 趣 旨 本制度は、市内主要企業にご依頼し、各業界の動向をお聞かせ頂き当所の諸事業に反映させる一方、会員・部会役員への情報提供の資料として活用致します。
- 札幌市を代表する13社（総括含む）から動向を聞き、結果を主要指標の動向と共に「札幌市及び道内の最近の経済概況」として取り纏め、公表するものです。
- 調査内容 ①今月の業界動向について  
a.各部門の対前年同期比売上の推移 b.取扱量の推移 c.季節的要因  
②先行きへの見通し及びその要因  
a.各部門の対前年同期比売上の推移 b.取扱量の推移 c.季節的要因  
③トピックス  
a.社会・国際情勢による変動 b.新技術事情 c.業界再編の動向
- 調査方法 調査は隔月で実施

6 月 結 果

《 総 括 》

道内計器は、設備投資が持ち直しているものの、個人消費が弱めに推移しているほか原油価格高騰に伴う原材料価格の上昇もあり、総じて横ばい圏内にある。

設備投資は、大手製造業の能力増強投資のほか、道内企業の投資マインドにも幾分改善がみられ前年を上回って推移している。住宅投資は、6月の新設住宅着工戸数が前年比1.4%減と2カ月ぶりの減少となった。利用関係別では、持ち家は8ヶ月連続して前年を上回ったが、分譲は7ヶ月連続で前年割れとなり、貸家も2カ月ぶりに減少した。公共投資をみると、7月の公共工事請け負い金額は国、道および市町村からの発注がいずれも前年を下回り、同10.8%減となった。個人消費は、薄型テレビなど家電製品が堅調な売れ行きで推移した。しかし、6月の大型小売店売上高は既存店ベースで前年比2.9%減、全店ベースで同1.6%減となった。業態別にみると、百貨店は天候不順により夏物衣料が低迷したが、身の回り品は堅調となった。一方、スーパーは衣料品が低迷したものの飲食良品が底堅く推移した。観光関連では、知床・朝日山動物園の人气が寄与していることもあり、6月の来道客数は同3.0%増と3ヶ月連続で前年を上回った。

一方、6月の鉱工業生産指数は、前年比3.1%増と4ヶ月連続して増加した。一般機械工業などで低下したものの、輸送機械工業や石油・石炭製品工業などで上昇した。7月の企業倒産は、件数では10.4%減、負債総額では同48.8%増となった。基調としては落ち着いた状況にあるが、大型倒産の発生により負債総額は増加した。雇用情勢をみると、6月の有効求人倍率（常用）は、新規求人数が建設業や卸・小売業などで減少したものの製造業や医療・福祉などで増加し、前年同水準の0.48倍となった。4-6月の失業率は、前年同期に比べ0.4ポイント悪化し5.4%となった。

## 《 6月の業界動向 》

### 建設業界

公共事業の投資削減策の煽りを受け、官庁工事の建築、土木共に不調である。反面、民間の一棟売りマンション建築・販売でカバー、よって売上面は横ばいの状態である。取扱量については、受注工事は、小口化かつ量的にも減少している。

先行きについては、官庁工事は、建築土木ともに減少見通しで、民間工事も減少すると想定される。取扱量は、受注高も小口かつ減少傾向にある。

業界でのトピックス事項としては、姉齒問題、浅沼問題により、当面民間マンション建築は低迷が予想される。業界動向としては、顧客ニーズはマンションから戸建住宅に回帰すると想定され、現在、宅地造成工事を計画、試算中である。

### 住宅業界

今年の新設住宅着工戸数は、現在のところ昨年比プラスで推移している。資産運用としての小・中規模マンションやアパート、いわゆる「貸家」が特に堅調である。

注文住宅をはじめとする住宅市場全体のパイは縮小傾向にあるが、その中で真剣に住宅を考えにている方は少なくない。当社業績については、昨年同期比若干のプラスで推移している。

数的に住宅業界は「上向き」との報道がなされている。しかし、前述の通り、あくまで賃貸住宅と分譲住宅に後押しされた数字である。札幌都市部では、高層マンションが乱立し、将来の「在庫」が懸念される。当社では競争の激しい札幌都市部を避け、釧路市で同エリア最大級（14階建）の「免震マンション」がこの度着工した。また先般、新商品（プラスエネルギー住宅）を発売したところである。

トピックス的な事項としては、1. 原油価格の高騰による資材や運送価格の上昇、ゼロ金利解除に伴うローン金利上昇局面による影響。2. 新エネルギー、エコを目指した商品開発、耐震強度偽装問題に端を発する「あんしんセミナー」の開催。3. 老舗倒産の増加、勝ち組・負け組の格差拡大。4. 都心部マンションの供給過剰感、本州不動産ファンドの進出などがあげられる。

### 貨物運送業界

当社では、売り上げは対前年比 3.9%増となった。部門別には、倉庫収入の伸びが大きく、また区域、特積み収入も対前年比で増加となった。

先行きについては、北海道の農産物については、冷夏の影響により前半は不調であったが、後半は数量が伸びるよう期待している。

業界のトピックスとしては、当社も参加しているが、大手企業のほか、地方の路線業者 12社が参加しているJITボックスチャーターが8月1日より全国で始まっている。

### 機械関連業界

6月は、前年比 4.5%、前月比 14.4%とともに増加している。要因としては、新年度分の予算にて設備投資の増加、消耗部品購入が順調に受注できていることがあげられる。

先行きについては、鉄鋼業界は現在安定をみせており、市内の機械加工業者も忙しいようである。素材メーカーも納期が遅れてきており、量的にも増えているようである。しかしながら、多くは本州企業からの仕事で単価はかなり厳しいように思える。

## 事務機・OA 関連

売上は対前年同月比 104%、対前月比で 113%増加となった。6 月単月では民間・公共問わず情報系ネットワーク（グループウェア）の買い替え需要があり、サーバー・PC の販売が順調であった。その他情報セキュリティ関連商品の動きも良かった。複写機・プリンタ関連も年度末需要から一段落状態ですが、買い替えではカラー化が進んでいる。

先行きでは、7～9 月の見通しとして、札幌地区で 103%、道内地区で 97%と見込んでいる。札幌地区では OA 関連の設備投資では、情報系ネットワーク構築から一巡し、サーバー・PC の更新需要が順調に推移しそうだが、札幌以外の地区では、公共・皆館ともに引き続き需要低迷の状況が続くと思われる。

パソコンの市場動向では企業収益の回復に伴い、サーバー・クライアントPC の新規・更新需要は以前順調に推移してきているが、パソコンの個人市場では薄型テレビなどに押され台数ベースでは 1 2 四半期連続プラス成長を記録してきたが、平成 18 年度第 1 四半期は前年同期比を下回る結果になっている。

## 総合スーパー業界

6 月は一ヶ月を通じての低温と雨などの天候不順が続き、来店客数は対前年減少（グループ全体の 6 月どの既存店客数は前年比 98.6%）したものの、青果物の相場高、家庭紙の値上前やたばこの増税前の需要増加などのプラス要因により、衣料品を除き、既存店前年比を上回った（グループ全体の 6 月度の既存店売上高は前年比 100.6%）。

道内製品の動きとして、牛乳類の売上は、無調整乳、低脂肪乳は前年を下回ったままであるが、加工乳、コーヒー牛乳、ホイップ類が好調で、牛乳全体としては既存店ベースで前年を上回った。また、米類は前年をやや下回ったが、引き続き府県産米から道産米へのシフトは続いており、一方で道産米は品薄から値上がり傾向が出てきているため、今後の道産米に対する需要の後退懸念が残る。

## 飲食業

前年比 89.0%。6 月には行って厳しい状況になってきている。ここにきて道庁の給与 1 割カット、競合店の進出などにより競争も激化の一途を辿るばかりである。天候不順もかなり影響したと考えられる。

先行きについては、しばらくはこういった状況が続くものと思われる。

## 旅行業

6 月の総取り扱い額については、ほぼ前年同月波となった。国内、外人旅行が伸び悩む中であって、海外旅行の検討が目立った。内訳を見ると、国内旅行は前年同月比 4.1%減、海外旅行は同 7.2%増、外人旅行は同 10.6%減、総取扱額では同 0.1%増であった。海外は情勢が安定してきた中国が大幅に伸びている他、グアム、アジアなどの近隣諸国で日数、価格面で手軽にいける方面が伸びた。

景気の回復傾向により、今夏の旅行動向は比較的堅調といわれるが、地域、方面によりバラツキが見られ、安定とはいえない面がある。全体的には国内旅行は微増、海外旅行は 5～10%程度の伸びを見込んでいる。

原油の高騰により、航空運賃の値上げ転嫁がこの秋以降も継続される状況となっている（国内線は航空保険特別料金 300 円を 10 月より廃止するが、その分を運賃に上乗せし、トータルは変わらない）。インターネットによるオリジナルパッケージツアーの予約（ダイナミックパッケージ）がANAと楽天の提携により、今秋からスタートす

る予定となっている。

### ホテル業界

昨年度愛知万博人気で国内の宿泊客の北海道への動きが悪くなったが、今年度は多少回復傾向にあり、札幌市内の各ホテルとも稼働率はアップしているようである。しかしながら、6月のメインイベントである「よさこいソーラン祭り」が天候にも恵まれず入込み人員で13%減ほど落としたのと連動して館内の売上も低迷した。また、過去6月といえばブライダルの好調月だったが、今年も入り込みは鈍化し件数も減ってきている。

夏の観光シーズンに入り、7・8月と天候も良く、宿泊客の動きも活発になってきている。また商工会議所主催のこども博も入込が好調で市内の活性化につながっている。しかしながら、景気回復の兆しは一部でしかみられずホテル業界にはまだ厳しい日々が続いている。

旭川動物園の入場者数は6月単月で日本一になったように人気に衰えはない。知床世界遺産と主に北海道景気を牽引している形になっている。

### エネルギー業界

6月分の販売電力量は、電灯や電力が前年実績を下回ったものの、特定規模需要が「商業施設」や「鉄鋼業」の需要増により高い伸びとなったことから、22億9100万kWh、対前年伸び率は1.5%と堅調な伸びとなった。

電灯は、時間帯別電灯（対前年伸び率4.6%）が加入増により高い伸びとなったものの、5月の気温が前年より高く推移したことによる暖房需要の減少により、対前年伸び率は0.3%減と前年実績を下回った。

電力は、低圧電力（対前年伸び率3.5%減）が契約電力の減少により前年実績を下回ったことなどから、対前年伸び率は3.5%減と前年実績を下回った。

業務用需要（対前年伸び率3.4%）の「商業施設」の新規出店の影響に加え、産業用需要（対前年伸び率2.8%）の「鉄鋼業」や「紙・パルプ」の需要増などから、対前年伸び率は3.1%増と高い伸びとなった。

大口電力では「鉄鋼業」や「紙・パルプ」が好調に推移していることに加え、「食料品製造業」の需要増などから、対前年伸び率は5.6%増と7ヶ月連続で前年実績を上回った。

### 定山溪

各部門ともに売上、取扱量は微増である。しかしながら札幌市内からの動きが悪く、道外客、外国客は10%程度増加したにもかかわらず、全体的には悪かったとの印象が強かったように思われる。特にツアー客は館内附帯消費高が伸びずに苦労した。

直近では7～8月までは前年より多少予約状況がよくなっている。但し、現状では9～10月までの予約が先行き不透明で、不安を感じている。しかし10月の紅葉の時期の年配者の予約が例年より早く多少年配者に関しては期待できるのではないかと考えている。冬期については、いまのところ学生のスキー修旅も不振で期待できる材料がない。

前年度からシンガポール、タイ、インドネシアから旅行客が増加傾向にあり、特に夏場の8月1日～8月末まで集客策として地域のイベントを長期名ものにし、好影響を期待したい。また10月にはかっぱバスの無料運行を行っており、昼間の見学もきめ細かくできるようになることから、来客増を期待している

札幌商工会議所  
札幌商業界動向調査結果（6月）

平成18年8月31日 発行

【お問い合わせ・照会先】

札幌商工会議所 総合企画部  
札幌市中央区北1条西2丁目 北海道経済センター  
TEL：011-231-1330 FAX：011-222-5215  
Mail：kikaku@sapporo-cci.or.jp